

## 社団法人 石油学会

### 平成17年度 事業報告

#### 1. 庶務事項

平成17年5月16日就任の新役員の登記手続きは6月に終了した。

#### 2. 会員数の状況

平成17年度末（平成18年3月31日）と前年度末の会員数を比較すると次表のとおりである。

項目 会員別	平成17年 3月31日現在	平成17年度会員数の増減			平成18年 3月31日現在
		増	減	増または減	
名誉会員	25	4	2	2	27
普通会員	3427	106	200	△94	3333
学生会員	216	124	94	30	246
小計	3668	234	296	△62	3606
維持会員					
1級	22	0	0	0	22
2級	10	0	1	△1	9
3級	47	0	4	△4	43
4級	29	2	2	0	29
5級	181	6	9	△3	178
小計	289	8	16	△8	281
公共会員	32	0	1	△1	31
総合計	3989	242	313	△71	3918

## 3. 会務の会合

平成17年度の各種会合数は次表のとおりである。

会 合 名	数	会 合 名	数
通常総会	1	資源部会(含幹事会)	2
評議員会	1	埋蔵量フォーラム	5
理事会	4	精製部会	24
顧問会	1	石油化学部会(含勉強会)	4
運営会議	5	製品部会	2
財務委員会	1	ガソリン分科会	26
役員等候補者選定委員会	1	燃料油分科会	18
研究助成委員会	1	潤滑油分科会	14
職員人事委員会	2	絶縁油分科会	19
正会員候補者推薦委員会	1	アスファルト分科会	13
正会員選挙管理委員会	1	試験分析分科会	15
受託事業委員会	1	装置部会	13
支部長会議	1	設備維持規格委員会(含分科会)	46
会員拡大委員会	1	機器分科会	16
広報委員会(含情報専門委員会)	2	配管分科会	13
ペトロテック編集委員会	11	設備保全分科会	8
Working Group 委員会	55	計装分科会	22
石油学会論文誌編集委員会	6	電気分科会	17
石油辞典編集委員会	2	保安分科会	1
研究・技術企画委員会(含小委員会)	3	経営情報部会(含WG)	21
国際委員会	1	新エネルギー部会	7
海外協力分科会	4	水素・燃料電池分科会	4
表彰委員会	2	溶接士検定委員会	6
表彰推薦委員会	1	標準試料委員会	2
表彰選考委員会(含小委員会)	9	設備維持管理士認定委員会	14
教育委員会	3		
創立50周年記念事業準備委員会	4	合 計	457

## 4. 講演会、討論会、研究発表会ならびに見学会等の実施

月	日	曜	名 称	開催地	講演数	参加者
平成 17 年						
5	16	月	第 46 回通常総会, 第 48 回年会—受賞講演, 特別講演, 懇親会	東京	7	109
	17	火	受賞講演, 第 54 回研究発表会, 第 10 回 JPIJS ポスターセッション		91	242
5	27	金	新エネルギー部会講演会「来たるべき水素社会に向けてエネルギー産業が果たすべき役割—水素・燃料電池技術開発への取り組み—」	東京	10	98
6	3	金	第 25 回絶縁油分科会研究発表会	京都	10	85
7	12	火	石油化学講演会 「これからの石油・石油化学産業をユーザー企業とともに考える」	東京	6	55
7	15	金	資源講演会「石油はいつまで続くのか?」	東京	7	79
9	22	木	第 5 回 回転機研究討論会	東京	13	145
10	14	金	精製講演会「エネルギーの有効利用と環境対策」	東京	7	133
10	27	木	盛岡大会	盛岡	212	430
	28 29	金 土	(特別講演, 招待講演, 第 35 回石油・石油化学討論会, 懇親会) 盛岡大会—見学会	葛巻町		
11	13 14	日 月	第 7 回日本—クウェート研究交流	アハマディ 市	6	100
11	15	火	経営情報部会講演会 IT で変わる製油所経営 ～情報の共有と可視化によるマネジメントの高度化～	東京	4	74
11	27 28	日 月	第 15 回日本—サウジアラビア合同セミナー	ダハラン市	6	120
12	1	木	2005 石油製品討論会	東京	21	194
	2	金	「環境調和型石油製品とその分析評価技術の最新動向」			
12	2	金	触媒シンポジウム「原料転換・燃料転換」	東京	6	81
12	8	木	第 36 回装置研究討論会	東京	11	141
	9	金	「設備の信頼性確保と最適化への取り組み」			
平成 18 年						
1	16	月	第 4 回中東石油精製・石油化学講演会, 展示会	マナマ市	1	800
	17	火				
	18	水				
1	20	金	設備維持規格講習会 (配管・設備)	東京	4	67
1	20	金	設備維持規格講習会 (回転機)	大阪	5	40
1	27	金	設備維持規格講習会 (配管・設備)	大阪	4	53
1	30	月	設備維持規格講習会 (回転機)	東京	5	48
2	9	木	第 6 回電気研究討論会「パワーエレクトロニクス機器・蓄電池の技術動向と診断技術」	東京	5	90
2	17	金	第 31 回精製パネル討論会	東京	3	167
2	26	日	平成 17 年度設備維持管理士認定試験 (配管・設備)	東京	—	95
				大阪	—	99
2	26	日	平成 17 年度設備維持管理士認定試験 (回転機)	東京	—	71
				大阪	—	61
3	2	木	第 23 回計装研究討論会	東京	7	137

## 5. 研究助成

平成18年度の助成は下記のとおり、若手研究者2名および1部会に決定した。

[若手研究者]

- (1) 「マイクロ・メソ・マクロ多孔質複合化材料の合成と触媒特性の検討」 (助成額 100万円)  
 東京大学生産技術研究所 助教授 小倉 賢氏
- (2) 「生体分子を用いた新規シリカナノ粒子の合成と応用」 (助成額 90万円)  
 東京大学大学院工学系研究科 助手 横井俊之氏

[部会]

「持続可能社会の実現に向けた「グリーン石油化学プロセス」の体系」 (助成額 30万円)

石油化学部会

## 6. 会務部門

## (1) 支部活動

北海道、東北、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の6支部があり、活動は次表のとおりである。

年	月	日	名 称	開催地	講演数	参加者
北海道支部						
17	7	23 24	日本化学会北海道支部夏季研究発表会共催	函館	15	280
	11	17 18	日本化学会・有機合成化学協会 第38回酸化反応討論会共催	札幌	63	100
	11	25	触媒学会北海道地区室蘭講演会共催	室蘭	3	30
	12	3	触媒学会北海道地区札幌講演会共催	札幌	6	50
	12	9	第6回北海道支部講演会 (日本エネルギー学会共催)	北見	2	40
18	1	31	第6回北海道支部研究発表会 (日本エネルギー学会共催)	札幌	16	50
東北支部						
18	3	17	第25回東北支部講演会	仙台	4	72
東海支部						
17	8	22 26	大学院生の製油所インターンシップ研修 (昭和四日市石油・四日市製油所)	四日市		2
	8	22 26	大学院生の製油所インターンシップ研修 (コスモ石油・四日市製油所)	四日市		1
	8	22 26	大学院生の製油所インターンシップ研修 (ジャパンエナジー・知多製油所)	知多		1
	8 9	29 2	大学院生の製油所インターンシップ研修 (出光興産・愛知製油所)	知多		2
関西支部						
17	5	24	関西支部見学会 (京都大学桂キャンパス)	京都		19
	9	2	第13回関西支部学生企業見学会 (コスモ石油・堺製油所)	堺		23
	10	7	第12回関西支部セミナー	大阪	3	40

	12	2	第14回関西支部研究発表会 (日本エネルギー学会共催)	京都	32	78
中国・四国支部						
17	12	9	第25回中国・四国支部講演会	岩国	6	64
18	2	10	第10回中国・四国支部技術交流会	山陽小野田	11	68
九州・沖縄支部						
17	10	6	第5回九州・沖縄支部講演会 —工業触媒が拓く環境の未来—	北九州	3	50
18	1	13	第6回九州・沖縄支部講演会 —海上輸送時に発生するVOCの現状と対策—	鹿児島	4	35

## (2) 広報活動

- 1) 講演会、研究発表会等の学会活動を報道各社への紹介および広告拡大の検討を行った。
- 2) 学会行事等を中心に随時HPにて学会活動を紹介した。

## (3) ジュニア・ソサイアティ (JPIJS) の活動

- 1) 平成17年5月17日(火)開催の第54回研究発表会に併せて、第10回ポスターセッションを開催した。
- 2) 研究会2件を発足した。  
「ナノ材料の創製と機能」研究会 代表：和田健司 (京都大学)  
「炭化水素の転換と水素・合成ガス製造」研究会 代表：関根泰 (早稲田大学)
- 3) ペトロテック各号に「JPIJSだより」として行事報告等を掲載した。
- 4) その他、全国においての活動は次のとおりである。

## [北海道・東北地区]

- ・平成17年7月25日(月)、26日(火)にオーロラセミナーを共催した。
- ・平成18年2月9日(木)に講演会「ゼオライトおよび無機多孔質材料の新展開」を開催した。

## [関東地区]

- ・平成17年11月4日(金)に企業見学会 (出光興産千葉製油所) を開催した。
- ・平成17年10月21日(金)開催のセミナー「産総研における多孔体の研究戦略と応用展開」に協賛した。

## [関西地区]

- ・平成17年7月15日(金)、16日(土)にコロキウム「未来型エネルギー変換材料創製への新潮流」を日本エネルギー学会関西支部と共催した。
- ・平成17年10月7日(金)に講演会「燃料電池の実用化と最先端」を開催した。

## [九州地区]

- ・平成18年度に開催する企業見学会 (新日鐵化学) を企画検討した。

## 7. 学術刊行部門

- (1) 一般誌 (ペトロテック月刊) を発行し、会員に配布したほか、一部外部に頒布した。

- 1) 各月の主な内容は次表のとおりである。

	17年										18年			合計 件数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
時評	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
座談会	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	0	9	

一般総説・資料	9	7	10	6	7	6	6	8	10	7	7	9	92
社会人ドクター	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
分析・評価技術入門	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	4
プロセス紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
産油国の国営石油会社	1	2	1	1	2	3	2	1	1	1	1	1	17
石油開発技術基礎講座	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
これも私の生きる道	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
私事白書	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
辛口放談	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
英語酒飲み話2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
PECだより	2	2	1	1	1	1	0	1	2	0	0	1	12
JPIJSだより	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
各世代に聞く	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
ふるさと自慢	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
今月の一口メモ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
新技術紹介	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
新刊紹介・書評	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	5
統計	1	1	1	1	1	1	13	1	1	1	1	1	24
全頁数	78	80	84	84	78	84	82	84	81	80	76	82	973

2) 特集記事を以下のとおり掲載した。

平成17年4月号「表面科学を活用した触媒反応特性解析研究」、6月号「メタノール合成技術」、11月号「水素社会に向けたエネルギー産業の役割ー石油系燃料電池を中心にー」、12月号「各種現象の予測」

3) その他毎月、国内・海外の最近のニュース、解説記事、学会活動を報告する「学会の窓」を掲載した。また、弔辞、トピックス、論文誌掲載論文要旨などを適宜掲載した。

(2) 論文誌(隔月刊)を発行し、維持会員(469部)、公共会員(32部)および普通会员・学生会員中購読希望者(315部)に配布したほか、外部に各号73部を頒布し、国内に47部、海外に77部を寄贈している(平成18年3月末日現在)。平成17年度の掲載内容は次表のとおりである。また、J-Stage上で平成16年6月より本誌のオンライン公開を開始し、第46巻第1号～第49巻第2号までを公開している(平成18年5月1日現在)。

巻数	48巻				49巻		合計
	3	4	5	6	1	2	
号数	3	4	5	6	1	2	6
総合論文	—	1	1	1	—	—	3
一般論文	7	8	5	5	3	5	33
ノート	1	—	2	2	2	2	9
技術報告	—	—	1	—	1	1	3
レター	1	—	—	—	2	—	3
投書	—	—	—	—	—	—	—
件数合計	9	9	9	8	8	8	51
全頁数	59	69	73	61	46	55	363

(3) 平成17年12月30日に単行本『石油辞典』(編集委員会委員長:辰巳敬 東京工業大学教授)〔丸善(株)出版〕を刊行した。

## 8. 研究・技術交流部門

### (1) 表彰

石油学会表彰規程ならびに野口記念賞表彰規程により、学会賞4件、論文賞1件、技術進歩賞2件、奨励賞2名、野口記念賞1件、野口記念奨励賞1名の授賞を決定した(詳細は報告事項 参照)。

### (2) 教育委員会

大学生(院生を含む)、一般市民などを対象として、石油に関する基礎知識、とりわけ実務面から理解を深め石油に対する興味を高めてもらうため、移動大学「石油関連セミナー」を石油連盟の支援の下に、全国で16大学・機関、講義数51コマを実施した。本年度は市川市、船橋市およびさいたま市のそれぞれで市民講座を実施した。本年度の聴講延べ人数は約5,600人であった。

平成9年度から通算すると総コマ数454コマ、聴講延べ人数約43,000人に達している。

### (3) 受託業務

- 1) (株)石油産業技術研究所から①国産乗用車の運転性試験、②ディーゼル車の燃料供給システム調査③サルファーフリー軽油信頼性評価試験について受託し、調査・試験を実施した。
- 2) (財)国際石油交流センターから「産油国石油精製技術等対策事業」として、①産油国研究者の受入、②産油国研究者との現地交流について受託し、調査・研究を実施した。
- 3) (財)石油産業活性化センターから「石油を原料とした水素製造、燃料電池技術に関する調査研究」について受託し、調査・研究を実施した。
- 4) 経済産業省から「バイオマス燃料を軽油に混合した場合の含有物の分析方法に関する調査」について受託し、調査・研究を実施した。

### (4) 外部団体に対する協力

他学協会、その他の団体から事業の共催、協賛などの依頼を受けて積極的に協力した。

## 9. 部会部門

### (1) 資源部会(地質、探鉱、開発、生産、環境)

- 1) 平成17年7月15日(金)に資源講演会「石油はいつまで続くのか?」を企画し、実施した。
- 2) 平成17年10月27日(木)、28日(金)に開催された「第35回石油・石油化学討論会」において「石油・天然ガスの開発」のセッションを企画し、協力した。

### (2) 精製部会(プロセス、製油、環境)

- 1) 平成17年10月14日(金)に精製講演会「エネルギーの有効利用と環境対策」を企画し、実施した。
- 2) 平成18年2月17日(金)に第31回精製パネル討論会「製油所の現場における省エネルギー活動、サルファーフリー(硫黄分10ppm以下)ガソリン、腐食対策とメンテナンス」を企画し、実施した。
- 3) 第30回精製パネル討論会会議録[平成17年2月10日(木)開催]を発行した。
- 4) 平成17年6月10日(金)に(独)北海道開発土木研究所 エネルギー地域自立型実証研究施設の見学を実施した。

### (3) 石油化学部会(グリーンプロセス、ケミカルプロダクツ、触媒、バイオテクノロジー)

- 1) 平成17年7月12日(火)に石油化学講演会「これからの石油・石油化学産業をユーザー企業とともに考える」を企画し、実施した。
- 2) 平成17年10月27日(木)、28日(金)に開催された「第35回石油・石油化学討論会」において「石油・石油化学における新しい触媒技術」「石油・石油化学産業とバイオ技術」「新複合化プロセス」「ケミカルズ合成技術の新展開」「ポリマーオリゴメリゼーション」のセッションを企画し、協力した。

- 3) 平成17年12月2日(金)に触媒シンポジウム「原料転換・燃料転換」を企画し、実施した。
- 4) 次のテーマで専門の講師を招き、勉強会を実施した。
  - \*ゼオライト極性ナノ空間での不安定化学種の安定貯蔵と反応加速(東京大学・尾中篤氏)
  - \*重質油含有土壌のバイオレメディエーション法による浄化(昭和シェル石油・松本孝夫氏)
- (4) 製品部会(分析、試験、製品開発、環境)
  - 1) 平成17年12月1日(木)、2日(金)に2005石油製品討論会「環境調和型石油製品とその分析評価技術の最新動向」を企画し、実施した。
  - 2) ガソリン分科会
    - a) (株)石油産業技術研究所から「国産乗用車の運転性試験」について受託し、調査・試験を実施した。
    - b) CFRオクタン価のリサーチ法およびモータ法JIS規格改定作業に協力した。
    - c) JPI-5R-5-93 [リサーチ法及びモータ法オクタン価測定マニュアル] の見直しを実施した。
  - 3) 燃料油分科会
    - a) (株)石油産業技術研究所から「ディーゼル車の燃料供給システム調査」について受託し、調査・試験を実施した。
    - b) (株)石油産業技術研究所から「サルファーフリー軽油信頼性評価試験」について受託し、調査・試験を実施した。
    - c) 第14回CFRセタン価照合試験を行った。
    - d) CFRセタン価測定方法のJIS規格改定作業に協力した。
  - 4) 潤滑油分科会
    - a) エンジン汚れ評価法のJPI規格普及のため第32回レイティングシンポジウムを開催した。
    - b) 自動車用ギヤ歯面損傷の評価に関する第4回レイティングシンポジウムを開催した。
    - c) JPI-5S-19-94 [スラッジ評価法] の確認作業を実施した。
    - d) JPI-5S-25-94 [ガソリンエンジン用ワニス評価法] の確認作業を実施した。
    - e) JPI-5S-29-88 [潤滑油せん断安定度試験方法] を平成18年2月9日に改訂した。
  - 5) アスファルト分科会

JPI-5S-67-05 [ダイナミックシアレオメータを用いた舗装用バインダのレオロジー性状の測定方法] を平成17年12月16日に制定した。
  - 6) 絶縁油分科会
    - a) 平成17年6月3日(金)に「第25回絶縁油研究発表会」を企画し、実施した。
    - b) 電気特性測定方法のJISとIECの試験装置の違いについて検討を行った。
    - c) 絶縁油の特性評価方法としての水素ガス吸収性について検討を行った。
    - d) 劣化絶縁油と絶縁物の水分平衡関係について検討を行った。
  - 7) 試験分析分科会
    - a) JPI-5S-23-84 [エンジン油の軽油希釈率試験方法] を平成17年12月16日に改訂した。
    - b) JPI-5S-24-84 [エンジン油のガソリン希釈率試験方法] を平成17年12月16日に改訂した。
    - c) JPI-5S-66-05 [原油及び石油製品—残留炭素分試験方法—マイクロ法] を平成17年5月11日に制定した。
    - d) CHNO分析計によるガソリン中の酸素分試験方法について検討を行った。
    - e) JPI-5S-63-02 [石油製品—硫黄分試験方法] の見直しを実施した。
    - f) JPI-5S-49-97 [石油製品—炭化水素タイプ試験方法—高速液体クロマトグラフ法] の見直しを実施した。
    - g) 経済産業省から「バイオマス燃料を軽油に混合した場合の含有物の分析方法に関する調査」



について受託し、調査・研究を実施した。

(5) 装置部会 [装置、機器、その他付帯設備、配管、材料 (腐食防食、強度)、計装、制御、電気、保全、安全、環境]

(5-1) 装置委員会

1) 平成17年12月8日(木)、9日(金)に第36回装置研究討論会「設備の信頼性確保と最適化への取り組み」を企画し、実施した。

2) 機器分科会

a) 機器分科会関係の次の規格類の見直しを実施した。

- \* JPI-7S-7-97 [塔頂ダビット]
- \* JPI-7R-51-97 [空冷式熱交換器の構造]
- \* JPI-7R-52-96 [横置容器サドル周り強度計算]
- \* JPI-7R-53-96 [横置容器サドル]
- \* JPI-7R-72-96 [縦形容器用ラグサポート]

b) 回転機専門委員会にて次の活動を実施した。

- \* 往復動圧縮機規格調査
- \* 遠心ポンプ製作検査規格調査
- \* 第5回 回転機研究討論会 (平成17年9月22日)
- \* イーグルブルクマン(株)新潟工場見学会 (平成17年6月10日)

3) 配管分科会

配管基準専門委員会、バルブ専門委員会、フランジ専門委員会、ガスケット専門委員会、管及び管継手専門委員会、バルブ・フランジ圧力温度基準統合WGを配管分科会の下部組織とし、次の規格類の見直しを実施した。

- \* JPI-7S-43-01 [石油工業用大口径フランジ]
- \* JPI-7S-67-00 [石油工業用バルブの基盤規格]
- \* JPI-7S-73-00 [石油工業用オリフィスフランジ]
- \* JPI-7R-76-93 [バルブのユーザガイド]
- \* JPI-7S-77-02 [石油工業用プラントの配管基準]

4) 設備保全分科会

a) 平成17年9月16日(金)に第18回設備保全分科会シンポジウム「加熱炉管理の問題点と今後の改善について」を企画し、実施した。

b) 平成17年11月10日(木)、11日(金)に太陽石油(株)四国事業所、日本地下石油備蓄(株)菊間事業所の見学を行い、「老朽化設備への対応」をテーマとし事前アンケートに基づき情報交換を行った。

c) 次の事例紹介・技術紹介・情報交換を行った。

- \* エチレン分解炉チューブの保全について (出光興産・梅津氏)
- \* 外面腐食抑制保温材 (明星工業・山城氏)
- \* 「過去の事故事例およびその防止策」および「ヒューマンエラーの実態およびその防止策」(オフィスK・小林光夫氏)
- \* 安全弁の保全方法 [スプリングの割れ防止対策および整備方法 (周期、方法、分解要否判断)] に関して事前アンケートに基づき情報交換を行った。
- \* 水素製造装置の炭酸腐食及び吸収/再生塔の充填物管理について事前アンケートに基づき情報交換を行った。

d) 日本学術振興会主催の先導的研究委員会 (化学プラントのリスクベース保全技術) に4名の

委員を派遣した。

5) 計装分科会

- a) 平成18年3月2日(木)に「第23回計装研究討論会」を企画し、実施した。
- b) JPI-7B-49-96 [加熱炉の保安計装システム設計資料] の見直しを行った。
- c) 次の勉強会、見学会、アンケートを行った。
  - \* 海外の防爆、モバイル機器の防爆、Field-Busの防爆紹介 (東洋エンジニアリング・庄司氏)
  - \* モバイルDCSについて (三菱化学エンジニアリング・吉田氏)
  - \* サッポロビール(株)新九州工場および九州石油(株)大分製油所の見学 (平成17年11月24日、25日)
  - \* 「ガスクロ分析計の稼動状況と更新」「DCSの更新」「導圧管レス計装への移行とその後」に関するアンケート調査

6) 電気分科会

- a) 平成18年2月9日(木)に第6回電気研究討論会「パワーエレクトロニクス機器・蓄電池の技術動向と診断技術」を企画し、実施した。
- b) 次の研究会、見学会、アンケートを行った。
  - \* 産業用電力系統連係技術高度化のための共同研究会
  - \* PCB機器の実態調査 (保管中のPCB使用機器の種類・数量、現在使用しているPCB使用機器の実態調査、変圧器およびOFケーブルの微量PCB混入の検出事例・調査の実態・今後の対応等、PCB廃棄処理計画の有無等) 報告書の作成
  - \* 「整流装置・インバータ・蓄電池」のアンケート調査
  - \* 中部電力(株)知多火力発電所 (知多電力館および火力発電設備) の見学 (平成17年10月28日)

7) 保安分科会

活動テーマの検討を行った。

(5-2) 設備維持規格委員会

配管・設備維持規格合同分科会、電気維持規格分科会、計装維持規格分科会、回転機維持規格分科会を下部組織とし、次の規格類の作成、見直し審議を行い、改訂・制定・追補を実施した。

- \* JPI-8S-1-04 [配管維持規格] の追補をHP上で平成17年12月15日に公開
- \* JPI-8S-2-03 [設備維持規格] の見直し
- \* JPI-8S-3-05 [回転機維持規格] を平成17年10月3日に制定
- \* JPI-8S-4-05 [電気設備維持規格] を平成17年9月2日に改訂
- \* JPI-8S-5-06 [計装設備維持規格] を平成18年2月2日に制定
- \* JPI-8R-11-03 [防食管理] の見直し
- \* JPI-8R-12-03 [劣化損傷の評価と対応] の見直し
- \* JPI-8R-13-03 [検査技術] の見直し
- \* JPI-8R-15-05 [フランジ・ボルトの締付管理] の追補をHP上で平成17年12月15日公開
- \* JPI-8R-16-03 [溶接補修] の見直し
- \* JPI-8R-17-03 [ホットスタート] の見直し

(6) 経営情報部会 (経済、統計、経営、OR、情報、システム、環境)

1) 下記のWGを設け、調査・検討を行った。

a) 「製油所におけるRPMの実情」

わが国の石油業界において欧米のRPM (リアルタイムパフォーマンス) の構想やツールがそ

のまま適用できるのか、また各製油所での導入状況について調査するため国内製油所にアンケートを実施した。

b) 「システム再構築における問題と対策」

2000年問題を契機に石油業界各社ともメインフレームによるレガシー・システムからクライアントサーバー型システムへの移行がほぼ完了し、現在はそのシステムの効率的な運用とバージョンアップ、再構築というのが大きなテーマとなってきた。システムのパッケージ化・人員の合理化、社内インフラが大きく変わった後のシステムの運用、バージョンアップ・再構築の課題とその対策を検討した。

2) 平成18年3月17日(金)に上記2WGの活動報告会を実施(公開)した。

3) 上記、報告会に併せて次の部会招待講演を企画し、実施した。

「戦略的なエンジニアリングをめざして」(東京工業大学・仲 勇治氏)

(7) 新エネルギー部会(エネルギー、地球環境問題)

1) 平成17年5月27日(金)に新エネルギー部会講演会「来たるべき水素社会に向けてエネルギー産業が果たすべき役割ー水素・燃料電池技術開発への取り組みー」を企画し、実施した。

2) 平成18年5月25日(木)に新エネルギー部会講演会「エネルギー利用多様化時代に向けてー期待される新エネルギーの実用化に向けた取り組みー」を企画した。

3) 水素・燃料電池分科会

(財)石油産業活性化センターから「石油を原燃料とした水素製造、燃料電池技術に関する調査研究」について受託し、調査・研究を実施した。

10. 認証部門

(1) 溶接士の認定事業

本年度の新規認定者数は1,568名で、現在までの累計認定者数は130,414名である。

(2) 標準物質の認定事業

本年度の認定数は次のとおりである。

硫黄分	2,147
窒素分	205
ニッケル・バナジウム分	50
FIA用	70
軽油硫黄分	656
標準ガソリン	73
流動点	40
合計	3,241

(3) 設備維持管理士認定事業

1) 設備維持規格(配管・設備)の講習会を平成18年1月20日(金)に東京、1月27日(金)に大阪で実施した。

2) 設備維持規格(回転機)の講習会を平成18年1月20日(金)に大阪、1月30日(月)に東京で実施した。

3) 設備維持管理士認定試験を平成18年2月26日(日)に東京および大阪にて実施した。その結果、設備維持管理士(配管・設備)として61名(受験者数194名)、設備維持管理士(回転機)として52名(受験者数132名)を認定した。